

つくば常民大学5月(第32回)

講師：常木 晃氏（筑波大学名誉教授）

題目：「西アジア考古学への招待—現代文明の基層を理解するために」

日時：2024年5月16日（木）午後1時～3時半

場所：つくば市二の宮交流センター

※ 参加自由・要資料（コピー）代

現代世界は、中東（西アジア）社会に対して多くの偏見に満ちあふれています。今現在も進行中のガザでの絶望的な状況を見るまでもなく、紛争の多発地、不法移民の原郷、不可解なイスラーム教、テロリズムの温床など、否定的なイメージが付きまといまいます。しかし考古学者は、そうしたイメージが決してフェアでないことを理解しています。なぜなら、西アジアは、アフリカで誕生した私たちホモ・サピエンスが出アフリカをして世界に拡散した出発点であり、農耕社会や都市社会を世界で始めて成立させ、文字や冶金術を発明、世界宗教となったキリスト教やイスラーム教の開教の地でもあり、西アジアこそ物質・精神の両面にわたり現代文明の基層を用意した地域であるからです。

私は半世紀近く、西アジアのイラン、シリア、イラクで、農耕の開始から都市の成立までを主テーマとして考古学調査に従事、また、紛争下の混乱の中で文化財保護についても模索してきました。今回は、その成果と文化財保存活動の現況についてお話しします。



内戦で破壊され尽くされたシリア第2の都市、世界遺産アレッポの風景
(2018年2月にシリア文化財博物館総局より提供)